

運輸 点描

各種統計で景気の回復傾向が鮮明になってきた。7～9月期の「日銀短観」では、大企業製造業の景況感がリーマンショック前の水準を回復し、非製造業や中小企業業の業況判断も改善。全日本トラック協会がまとめた7～9月期の景況感調査結果でも、業界の景況感は大幅な改善を見せた。一方で、年末繁忙期に向けて人手不足、車両不足が指摘されており、「仕事をこなさねないのでは」との声も聞かれる。燃料価格の高止まりが続く中、本当にトラック運送業界の景気は良くなるのか。

トラック業界「景況」動向

日通総合研究所が10月25日発表した企業物流短期動向調査(日通総研短観、9月調査)によると、7～9月期の荷主企業の国内向け出荷量「荷動き指数」は、前期比16ポイント上昇のプラス7となり、平成23年7～9月期以来2年ぶりのプラスに転じ、荷動きの回復が確認された。

全ト協が11月18日に発表した、7～9月期の景況感調査結果によると、トラック運送業界の景況感判断指標はマイナス14となり、4～6月期の同36から22ポイント上昇と

大幅に改善した。ただ、燃料価格高騰の影響で、中小規模事業者の営業利益は依然として伸び悩んでいる。

荷動きの回復傾向が進むにつれ、車両不足が懸念されている。

日本貨物運送協同組合連合会が運営する求荷求車情報システムである「WebKIT」の、10月の求車情報登録件数は前年同月比53・4%増の8万4686件となり、2か月連続で月間過去最大値を更新した。

年間最繁忙期は12月だが、今年には既に9月で

燃料価格高止まりが影落とす 利益なき繁忙では景況上がらず

昨年12月の登録件数を超えてしまった。車両不足の背景には、人手不足、ドライバー不足も指摘されている。

全ト協の7～9月期景況感調査では、人手の過不足状況を表す指標がプラス54となり、4～6月期の同32から22ポイント上昇し、不足感が強まっている。

プラス54という数値は、かつてない水準の不足感だが、10～12月期の見通しでは、これがさらに同65へと上昇する見込みで、「仕事をこなさねないのでは」との懸念につながっている。

需要拡大に伴い、運賃水準も強含んでいる。日通総研の9月短観では、7～9月期実績の一般トラック運賃動向指数は、前期比3ポイント上昇のプラス5。10～12月期の見通しはさらに2ポイント上昇の同7と見込まれ、運賃水準の上昇圧力が強まる、と予測している。

各種の統計・指標を見る限り、トラック運送業界は長かったトンネルを抜け出せそうに見えるが、楽観はできないようだ。

全ト協・景況感調査の10～12月期見通しは、本来なら増税前の駆け込み需要で、内需が盛り上がり、予想されるにもかかわらず、景況感判断指標はマイナス14と横ばいにとどまっている。

その背景として、調査結果は燃料価格の高止まりに伴う燃料費の増大や人材不足、環境適合車の維持コストなどが収益を押し下げている、と分析している。

業界の燃料費の支払い時期は、2、3か月後になることが多い。このまま燃料価格の高止まりが続けば、繁忙期で稼いだ以上の費用を払わなければならない事態も考えられる。

利益なき繁忙では景況感が上がるはずもない。(ジャーナリスト 伊集院 豪)

7～9月期 トラック運送業界の景況感調査

全ト協

全日本トラック協会は、第83回「トラック運送業界の景況感」調査結果(7～9月期、速報)をまとめた。それによると、景況感の判断指標は▲(マイナス)14で、前回(4～6月期)▲36より大幅に改善した。

宅配貨物は、輸送数量の判断指標がプラス6で前回より11ポイント悪化。営業収入は▲10で17ポイント、営業利益は▲10で6ポイントそれぞれ悪化した。一方、宅配以外の特積貨物では、輸送数量の判断指標がプラス23で17ポイント改善。営業収入はプラス28と30ポイントも改善しプラスに。営業利益は▲8で6ポイントの改善にとどまった。

一般貨物では、輸送数量の判断指標がプラス5に転じ、25ポイントの大幅な改

景況感、大幅に改善も 燃料費負担が収益圧迫

善。営業収入は20ポイント改善し、ゼロ水準に戻した。営業利益も7ポイント改善したが、依然▲29と水面下。

運賃水準に関しては、宅配貨物が▲13で悪化した。宅配以外の特積貨物はプラス15、一般貨物は▲10とそれぞれ改善。

今後10～12月期見通しでは、景況感の判断指標が▲14で今回調査と横ばいの見込み。燃料コストの高止まりなどが収益を圧迫し、景況感の指標を押し下げている。

運賃水準に関しては、宅配貨物は改善するが、宅配以外の特積貨物はやや悪化し、一般貨物は横ばいの見込み。



上乗せ措置創設へ 税額控除10%に拡充

中小企業投資促進税制が延長・拡充され、上乗せ措置が創設される。今臨時国会で産業競争力強化法案が審議中で、適用は、この法案の成立後となる。

10月に決定した与党(自民・公明党)の「民間投資活性化等のための税制改正大綱」に基づき、延長・拡充されるもの。

中小企業・小規模事業者に対しては、設備投資などを促進するための優遇措置が講じら

中小企業投資促進税制

具体的には、①30%の特例償却(個人事業主、資本金1億円以下の法人が対象)について、乗せ措置を講じ拡充する。

乗せ措置を講じ拡充する。具体的には、①30%の特例償却(個人事業主、資本金1億円以下の法人が対象)について、乗せ措置を講じ拡充する。

東ト協

運送原価計算セミナー

来年3月にかけて開催

東京都トラック協会によるコスト増分の運賃は、再生産可能な適正運賃に引き上げられていく。また、原価管理を徹底して、平成25年度の「原価計算システムセミナー」を来年3月にかけて開催する。各支店・部会単位などで開催するもので、簡易な原価計算ソフトの活用により、原価管理を行い、運賃の原価意識の向上」を掲げており、この一環として、今年度も引き続き、原価計算システムセミナーを実施するもの。

業界では折しも、軽油価格高騰に伴う燃料コストの増大が事業経営を大きく圧迫しているが、燃料サーチャージ導入など

東京労働局管内

65歳以上まで 希望者全員雇用 58%

高齢者雇用状況

東京労働局はこのほど、管内における「高齢者の雇用状況」集計結果をまとめた。今年4月施行の改正「高齢者雇

安定法」に基づき、高齢者の雇用確保措置を「実施済み」の企業割合は92・1%と大幅に改善している。

このうち、中小企業(31～300人規模)は91・4%、大企業(301人以上)は95・1%。

雇用確保措置の方法は、「継続雇用制度の導入」が最も多く全体の82・1%。このほか「定年の引き上げ」が15・2%、「定年の廃止」が2・7%となっている。

継続雇用制度の導入企業のうち中小企業は61・2%で同17・3ポイント上昇し、大企業は45・7%で同25・4ポイント上昇と2倍以上に増えている。

中小企業庁 最低賃金改定に対応 支援策マニュアル

これに伴い、中小企業・小規模事業者から経営上の各種相談が予想されることから、最低賃金に関する相談窓口の紹介や各相談窓口の連携強化を図るため、マニュアルを作成した。

マニュアルの内容は、厚生労働省・中小企業庁ホームページに掲載。

カメラは見ていた。その瞬間を!

YAZAKI

ドライブレコーダー

を付けてみませんか?

ご希望がございましたら、ご連絡下さい。

矢崎エナジーシステム 特約販売店

世田谷サービス株式会社

本社 03-5727-1600
板橋(営) 03-5916-3557
ホームページ http://www.setagaya-yss.co.jp
E-mail: postmaster@setagaya-yss.co.jp

事故防止 事業者大会

東ト協 中央支部

東京都トラック協会中央支部(永井寛泰支部長)は11月8日、中央区の月島社会教育会館4階ホールで、平成25年度事故防止事業者大会を開催し、各事業者が「安全最優先」の風土の構築・定着を目指す旨の宣言を行った。

冒頭、あいさつに立った永井支部長は、「トラック運送事業者は社長・管理者・社員が一丸となつて、事故防止に全力で取り組むことが最優先」と強調。「関係機関と連携し、事故防止活動に積極的に参加することで、事故のない社会を目指していき」と述べた。

また、東ト協事故防止委員会の新倉康榮副委員長が来賓あいさつし、「会員第一当事者の死亡事故が、昨年同期に比べて増加する非常に厳しい状況にある」と述べ、「交差点手前での一時停止と左右の指差し呼称による確認の徹底をお願いする」と呼びかけた。

大会では、関東交通共済協同組合の別部領雄専任講師が「トラック事故防止のために」と題して講演。最近の事業用貨物自動車事故事例を挙げ、事故原因とその防止対策について解説した。

東ト協は、関係交通共済協同組合の別部領雄専任講師が「トラック事故防止のために」と題して講演。最近の事業用貨物自動車事故事例を挙げ、事故原因とその防止対策について解説した。



「安全最優先」へ大会宣言

「安全最優先」へ大会宣言。各交通安全協会の協力により開催。支部事故防止委員会(松原伸行委員長)を中心に、各分科会や三組織メンバーなど支部を挙げて運営に当たった。

冒頭、あいさつに立った三浦支部長は、「大きくて怖いと思われるトラックは、いつも安全を指して交通事故ゼロ、死亡事故撲滅のため頑張ってほしい」と呼びかけ、その上で、「最近、自転車による事故が多いが、トラック運送事業者と一般の皆

東ト協 大田支部 事故防止大会

東ト協大田支部(三浦徳邦支部長)は11月16日、大田区の平和島公園内野球場で6回目となる支部事故防止大会を開催した。今回は区の要請を受け「第24回OTAふれあいフェスタ2013」(16・17日開催)のイベントの一つとして開催。事業者だけでなく、一般市民も多く参加し、これまでにない規模の大会となった。

大会は、大森警察署と蒲田・池上・田園調布の



プロスタントマンが事故再現

一般市民も多数参加

交通安全教室を開催。大型LED掲示板搭載のサインカーを使用し、クイズ形式で自転車の安全利用について説明。さらに、メーンイベントとしてプロスタントマンによるスケアードストリート方式の交通安全教室を開催。時速40キロ走行での衝突、トラ

東ト協 千代田支部 第1回 運転者講習会

「心技体」整え事故防止を



正化事業部の西澤康雄部長が事故防止をテーマに講演。「交通事故はドライバーの心理的な影響だけでなく、車両の挙動特性など複合的な要素から発生する」として、「総合的な対策で交通事故を未然に防止する必要があり」とした。その上で「運転者には、輸送に対する責任感やプロに徹する「心構え」だけでなく、運転「技術」の習得、そして「体調」管理という「心・技・体」を整えることが、安全な運行のために重要」と強調した。

東ト協紙・パルプ専門部会

荷主業界団体へ 荷渡し条件の徹底要請

東ト協紙・パルプ専門部会(近野裕之部会長)は、紙類の輸送業務において、荷主業界団体へ荷渡し条件の徹底を要請した。部会では、東京洋紙同業フォーカスなどによる荷卸し作業を依頼されるケースが多い。このため、現状のままでは商品の損壊事故にともなう人身事故にもつながりかねないなどコンプライアンス上の問題に発

第1回 経営者 実務セミナー

ドライバー育成をテーマに



東ト協は11月5日、東ト協会館で第1回経営者実務セミナーを開催。今回は、ミナミの酒井誠代表取締役が「小さな運送・物流会社のための『プロドライバー』を育てる3つのルール」をテーマに、その秘訣は、「社内(倉庫)の秘訣は、ドライバー育成にあり」と題して講演した。

同社は運転者育成の一環として、全日本トラック協会の全国トラックドライバー・コンテストに積極的に参加しており、今年度の第45回大会では、同社の倉本健一さんが4部門で優勝。中小企業所属の最も優秀な選手に贈られる、国土交通大臣賞を2年連続で受賞した。酒井氏は「社内に(倉庫)の秘訣は、ドライバー育成にあり」と題して講演した。

全国ドラコン

総理大臣賞の唐木さん

東ト協本部に優勝報告

全日本トラック協会主催の第45回全国トラックドライバー・コンテストに東京都代表選手として出場し、総合優勝した日通東京運輸・コンテナ事業部所属の唐木春生さんが11月7日、東ト協本部を訪れ、綿引専務理事ら本部役員に対し、総合優勝した旨報告した。

唐木さんは、プロドライバー日本一の証である内閣総理大臣杯や表彰状を携え、所属する同社の松本久雄



左から中野・唐木・松本 各氏

社長や中野雅司業務部長とともに協会本部を表敬訪問。綿引専務理事らが唐木さんの健闘を讃え、日本一の栄冠を祝した。

唐木さんは、今年の東ト協第34回ドライバー・コンテストの11トン部門で優勝し全国大会に出場したもので、各部門を通じて最高得点を挙げ、初出場の内閣総理大臣賞を受賞した。

事故防止緊急対策 実施中!!

トラック事故速報 死亡事故

問い合わせ先: 東京都トラック協会 運行管理課 ☎03-3359-3618

日時	11月5日(火) 0時02分頃発生
場所	大田区内(港湾道)
当事者	①自家用大型貨物車(乗客20名死亡) × ②事業用大型貨物車(乗客1名死亡) × ③事業用大型貨物車(乗客1名死亡) × ④事業用大型貨物車(乗客1名死亡)
状況	
概要	①自家用大型貨物車は、港湾道を中央防波堤方向から環七通り方向に進行中、赤信号で停車していた②事業用大型貨物車に追突し、さらにその前方で停車していた③事業用大型貨物車、④事業用大型貨物車に追突させたもの。

関ト協 海上コンテナ部会



関東トラック協会海上コンテナ部会(荒木俊夫部会長)は12月から、海上コンテナ輸送に従事するトラック運転者の法的拘束時間の遵守運動を本格的に展開する。

東京港の各コンテナ埠頭ではかねてから、ターミナルの混雑による海コン

法令遵守運動を展開へ 運転者の拘束時間

規則労働を余儀なくされる。このため、運転者が海コン輸送を敬遠するようになり確保が難しくなっている上、運転者の拘束時間の対応が困難であるため、優良な事業者を中心に海コン輸送から撤退・事業縮小するところも出ている。

こうした事態を打開するため、引き続き東京都をはじめ関係方面に対し

東京都・警視庁

死亡事故が連続発生

東京都青少年・治安対策本部と警視庁は、11月初めにかけて7件の交通死亡事故が連続して発生したこと、関係方面に交通事故防止対策の強化を呼びかけている。

対策強化を呼びかける



都内では今年、交通事故発生件数・死者数とも前年を下回る状況だが、10月29日から11月3日までの6日間に、7人の死亡事故が連続して発生した。このため、

首都交通対策協議会(会長・猪瀬直樹東京都知事)は年末にかけての交通事故多発期を迎える12月1日から7日までの7日間、平成25年「TOKYO交通安全キャンペーン」を実施する。同協議会が推進要領を決定し、関係機関・団体と連携して展開するもの。

深夜割引待ちで渋滞 利用分散化に協力を

深夜割引の適用待ちと見られる車の両の集中により渋滞が続いていることから、利用の分散化を呼びかけている。

同料金所では午後10時50分頃から、深夜割引(最大50%)が適用されるとして、利用の分散化を促しているものだ。

NEXCO中日本 東名・東京料金所

中日本高速道路(NEXCO中日本)は、東名高速道路・東京料金所出口(東京方面)で、ETC

12月1~7日
TOKYO
交通安全
キャンペーン

関交協の 自動車共済

自賠償 + 自動車共済

セット契約割引実施中!!

詳しくは、関交協・営業部 ☎03-5337-1753



トラックの自動車事故損害賠償と交通事故防止

関交協

関東交通共済協同組合

セット契約

自賠償共済

+

自動車共済



自動車共済の掛金が割引になります!

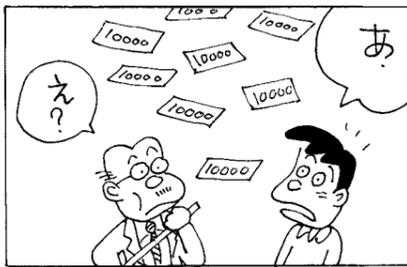
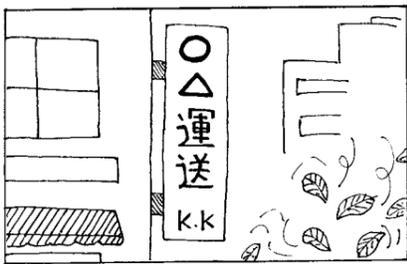
関交協

検索

アクセル君

No.734

芝岡☆友衛



東ト協連 ニュース

東ト協連

第19回 運賃動向調査

收受運賃「低い」9割近く

今回の調査対象時期は1月31日時点で、200社を対象に調査し、回収数は168社。

現行の收受運賃は希望する運賃と乖離が大きく、希望する水準より「低い」が41・7%と最も多く、「少し低い」が38・7%、「極めて低い」が6・5%。程度の差はあるが「低い」とする事業者が合わせて86・9%にのぼる。

この半年間に荷主と交渉した「交渉した」は29・8%にとどまり、「交渉していない」が58・3%、「今後交渉する」が11・9%で、これらを合わせると70・2%にのぼる。

運賃交渉したら、逆に「値下げにあった」事業者が18・0%もあり、こうした懸念から、運賃交渉に二の足を踏まざるを得ないのが実情だ。

荷主からの不正な取引の要求も相変わらず多く、この半年間にこうした要求を受けたとの回答

東京都トラック運送事業協同組合連合会(古屋芳彦会長)はこのほど、第19回「運賃動向に関するアンケート調査」結果をまとめた。運賃の收受状況は依然厳しく、希望する水準より低いとの回答が9割近くにのぼる。また、運賃者不足も深刻化しつつある。

1割強アップ希望が約7割

一方、「希望どおり」は12・5%にとどまる。希望する運賃水準は現行より「5〜10%未満」アップが34・9%と最も多く、次いで「10〜15%未満」アップが34・3%。これらを合わせた「5〜15%未満」アップを希望する事業者が全体の69・2%と約7割に達する。

こうした厳しい收受状況にもかかわらず、運賃交渉はままならない状況にある。

この半年間に荷主と交渉した「交渉した」は29・8%にとどまり、「交渉していない」が58・3%、「今後交渉する」が11・9%で、これらを合わせると70・2%にのぼる。

「車線逸脱警報装置」など新基準採用

国土交通省

国土交通省は、自動車局は、国連欧州経済委員会の「車線逸脱警報装置に係る協定期則」や「衝突被害軽減ブレーキに係る協定期則」などを国内基準として導入することに伴い、道路運送車両の保安基準などを一部改正し、11月12日付で公布・施行した。

大型トラックなどに備える車線逸脱警報装置について、ブリヂストンは11月7日、国土交通省に対して中・大型トラックおよびバス用タイヤ1422スペック(形式120万4707本)について、リコールの届け出を行い、点検・交換作業を順次実施する。

ブリヂストン トラック・バス用タイヤ 約120万本をリコール

点検の対象は平成24年1月から25年8月までにおよびバス用タイヤに、同社栃木工場で製造されたタイヤ。

東京都はこのほど、平成26年度「国の予算編成に対する東京都の提案要求」を決定し、今後、国の関係省庁に実現を要請する方針。

提案要求の最重要事項は、全日本トラック協会に対して10月30日付で「食品の運搬に係る適正な温度管理について」を通知し、会員事業者に周知徹底するよう求めた。

食品輸送の一部、適切な温度管理を実施していない事業者が見られたため、要請文書を送った。

厚生労働省医薬食品局から発せられた、適正な温度管理の実施に関する通知を受け、全ト協に要請文書を送った。

東京都 26年度予算編成 に向け提案要求

東京都はこのほど、平成26年度「国の予算編成に対する東京都の提案要求」を決定し、今後、国の関係省庁に実現を要請する方針。

提案要求の最重要事項は、全日本トラック協会に対して10月30日付で「食品の運搬に係る適正な温度管理について」を通知し、会員事業者に周知徹底するよう求めた。

食品輸送の一部、適切な温度管理を実施していない事業者が見られたため、要請文書を送った。

の推進、自動車排出ガスに係る大気汚染対策の強化と道路環境対策の推進など。

国土交通省自動車局は、全日本トラック協会に対して10月30日付で「食品の運搬に係る適正な温度管理について」を通知し、会員事業者に周知徹底するよう求めた。

食品輸送の一部、適切な温度管理を実施していない事業者が見られたため、要請文書を送った。

向動ファイル

◇10月分◇

●東京都トラック協会、自民党東京都支部連合会に平成26年度税制改正等に関する要望書を提出する。軽油価格が高止まりする中で、補助制度の創設や軽油引取税の旧暫定税率廃止などの対策を強く訴える(2日)

●全日本トラック協会、国土交通省の太田昭宏大臣に平成26年税制改正・予算に関する要望し、特に燃料高騰対策の早期実現を求め、あわせて「地球温暖化対策のための課税の特例」還付措置適用、高速道路料金の割引制度拡充を要望する(28日)

●第45回全国トラックドライバー・コンテスト表彰式、開催される。東京都代表として11部門に出場した、日通東京運輸コンテナ事業部所属の唐木春生さんが総合優勝し、内閣総理大臣賞を受賞する。東京都代表選手は、内閣総理大臣賞を受賞する。東京都代表選手は、内閣総理大臣賞を受賞する。東京都代表選手は、内閣総理大臣賞を受賞する。

「家族葬」から「一般葬」まで

大切な人へ…ありがとう

心の花束

ISO9001 審査登録

— テレビアの —

家族葬

0120-57-1121

人の心 日本文化を守る

◆品質保証の国際規格 ISO9001 審査登録 (詳細サービス)

テレビアつくば 担当: 石田



働く姿を子供たちに伝えたい

第9回 アイテム写真コンテスト ★ アイテムフォトギャラリー・シリウス 「はたらくすがた」入選作品展



小学生の部グランプリ 「稲刈りは大仕事」平出菜々美



中学生の部グランプリ 「畑でスイカの収穫中」藤江ゆうな



高校生の部グランプリ 「さあ、召し上がれ」宮川菜奈美

夏休みの課題として、「はたらくすがた」の記録が始まった。子供たちは夏休みの田舎へ散ると全国や祖父・祖母・伯父・叔母の大人たちの働く姿を調べ、撮影した。

求人情報誌を発行するアイテムの社長・梶山亮さんは、ずっと人の働く姿に興味を持っていて、仕事柄当然とも言えるが、「働くことのすばらしさや大切さを、次代を担う子供たちに伝えていくことは、人と仕事を結ぶことを事業としてきた私どもにとって、広く社会に向けての大切な活動(第9回展の主宰者あいさつより)」と考え、その働く姿を記録しておきたいと思うようになった。

梶山さんは、親交のある写真家・田沼武能さんに相談した。田沼さんは、120か国以上の国を回って、世界中の子供の写真を撮ってきた写真家である。

梶山さんは、もともと写真が好きだということもあって、2001年に本社ビルを建てる際に、2階の一部を写真ギャラリー「シリウス」として一般に開放している。田沼さんとは当然のように意見が一致、写真コンテスト「はたらくすがた」を行うことになった。



入選作品の飾り付けが進む会場で審査員長の田沼武能さん(日本写真家協会会長)

視点 焦点 合点

文と写真= 写真家・石黒健治
http://ishigurokenji.com

2005年の第1回は106点の応募が、2年目からは右肩上がり。いろいろな意味で一番心配した2011年は、震災6か月後の9月の締め切り

にもかわらず、最高の5918点の応募があった。大災害は、かえって人の働く姿を浮き彫りにしたのだ。田沼さんは、「子供たちは親が何をどう働いて生活しているのか、知らずに育っている。特に会社勤めの両親の姿からは何も見えてこない。いま、子供たちに大人たちの働く姿を見せることが大切だ」と思う。

コンテストは、学校側の積極的な賛同を得られるようになった。学校単位で、夏休みの課題として、「はたらくすがた」の記録が始まった。子供たちは夏休みの田舎へ散ると全国や祖父・祖母・伯父・叔母の大人たちの働く姿を調べ、撮影した。

コンテストが始まって今年で9回目になるが、この間には、カメラのデジタル化という急激な変化もあった。そうして集まった2013年の応募は過去最高の6182点に達した。「中高生になると、技術的にはうまくなるが、どうしても型にはまったものが多くなる。小学生の写真が実にいい。見て感じたことを、素直に撮っている」

「ぼつと見たときの感激をカシャ」は、当欄の「新・写真作法」で紹介したラルティグのフォト・インチェンティの神髄そのものである。ちょうど恵比寿の東京都写真美術館で、「植田正治とジャック・アンリ・ラルティグ」展が開催中だ。こちらも楽しみである。

★第9回アイテム写真コンテスト「はたらくすがた」入選作品展
アイテムフォトギャラリー・シリウス(新宿区新宿1-4-10) ☎03-3350-1211 12月4日(水)まで/日曜休館/入場無料

📷 オリンパス OM-DE-M5 M. スイコーデジタル 12-50ミリ

あちこち 見てある記

小売業では、コンビニがパートの売上高を上回りましたが、スーパーマーケットの不動の地位は揺らぎません。経済産業省の統計データによると、スーパーは約13兆円の市場規模(食品スーパー約8兆円)で推移しており、依然としてコンビニの追い上げを許さない状況にあり

『スーパーマーケット・ミュージアム』

商品がみんなトラックに乗ってやってくる! 限定で開設されました。主催は都内を中心に店舗展開をしている中堅スーパーの「サミット」。世田谷区教育委員会、目黒区教育委員会が後援し、子供から大人まで楽しめる内容となっています。「学習館」ではスーパーに関する情報をパネル展示で紹介し、レジ打ちの体験もできます。注目すべきは「商品が売り場に届くまで」の展示。ここでは「商品がみんなトラックに乗ってやってくる!」として、トラック輸送や倉庫業務などの物流の重要性をしっかりと紹介しています。

『スーパーマーケット・ミュージアム』

開催期間:平成26年1月26日(日)まで(元日は休館)
住所:世田谷区野沢4-2-10(学習館)、同4-2-19サミットストア野沢龍雲寺店内(体験館)
開館時間:午前10時~午後6時(学習館の入場は午後5時30分まで)
入場料:無料

四国遍路紀行 ちよつと一服

第16回

ルポライター 飛鳥井 恭司

遍路中にいろいろな出会い、問はず語りや思いがでてきたりします。最初に出会ったのは30歳代ぐらいの男性遍路さん。四国遍路は4回目、そのほかにも番外霊場、四国三十六不動尊巡りなどを始め、各地の霊地を歩き巡っているといえます。

「お仕事は?」「托鉢です」との答え。托鉢は、遍路にとって最後の修行といわれています。本来は1日3戸あるいは7戸の家の門口に立つて、物乞いをしてなければなりません。実際のところは事情が違いますが、街角や門前で喜捨をお願いするので、余り好意的な雰囲気です。そのためか、札所には「当寺とは関係ありません」「境内で托鉢はしないように」などの注意書きがされています。

また、日本一周中のプレートをつけた高級マウンテンバイクで走行する青年、原付で何度も遍路をしている名物おばちゃん、バス・自動車、歩き、さまざまなスタイルで何度も遍路に来ているおじさん、リヤカーを引いているおじさん、いろいろな思いが歩いていきます。

そして、今回の目玉となるのは「体験館」で、実際に営業中の店舗を利用して、11月26日から行われる無料のツアー(先着順20人、1日3回実施)に参加すると、売場やバックヤードを見学することができます。

月刊誌「新潮」12月号の特集は「昭和」が消えてゆく

昭和生まれには触手が動く。手にとると、巻頭に「昭和から平成となつてちよつと四半世紀。気がつけば社会のありようも私たちの暮らしも様変わりした」◆まさに、その通りで「時代を彩つた人々」は次々と鬼籍に入り、まさに「昭和は遠くなり」の感を強くする昨今である。「実感である。ではあるが、そこには「失つては惜しい美風も、失つてはならない心もある。取り返しのつかないものまでなくしてしまつたのではなにか」という思いは、どうしても残る◆特集は、そこをキーポイントに識者の論調を載せている。その土台は「失われた価値観」である。昭和の時代に培われてきたものが、いま土台から崩れていつたか、と問いていだろうか、と問いてい

◆例えば「教養主義が死滅した後」に残つたものは、下流民主主義による衆愚の塊であること、との指摘。また「世間体が支えていたもの」が目の敵となり、時代遅れと葬られた、とも。だが、昭和は確実に遠くなつてい